

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中北小学校	校長	黒山 寛司	生徒指導主事	梶本 裕樹
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『ピア活動による自己有用感の育成』
-------	-------------------


取組における育てたい資質・能力					
-----------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
コミュニケーション能力	2	積極性	3	自己有用感	1

取組のねらい

- ・ 上学年児童は、下学年児童に自分の思いを伝え合いながら関わる活動を通して、自己有用感を育成する。
- ・ 下学年児童は、上学年からお世話されたり、上学年をお手本にしたりすることを通して、上学年へのあこがれや感謝の気持ちを持ち、その思いを伝えることができる。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『キーワード 思いを伝え合う』
----------	----------------------------

<p>【全学年共通】</p> <p>○ピア遠足 ピアのメンバーと一緒に弁当を食べたり、上学年が事前に考えておいたゲームをしたりする。</p> <p>○学習発表会の鑑賞会 発表会を鑑賞し、お互いのよさを伝え合う。</p> <p>○ピア遊び 休憩時間に、上学年が考えたゲームをしたり、ピアグループに分かれて一緒に活動したりして、関わり合う。</p> <p>○給食、掃除のサポート活動（6年） 日々の学校生活の中で、6年生が1年生の給食準備や掃除の時間のサポートをする。</p> <p>○縄跳び週間における、縄跳び運動（6年） 縄跳びの跳び方の手本を示したり、跳び方を教えたりする。</p> <p>○修学旅行に向けて（1年） 6年生に向けて、てるてる坊主を作り、応援をする。</p> <p>○学習の発表（2・4年） 生活科及び総合的な学習の時間で学習したことを、伝え合う。</p>	<p>・ 上学年は、下学年のことを考えて、「どうしたら楽しくなるか、喜んでくれるか」を意識して、計画し、活動に臨む。</p> <p>・ 下学年は、お世話をしてもらったことや、自分達のために考えてくれたことに対して、感謝の思いを表現する。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>・ 上学年が、下学年の思い（感想や手紙、発表）を聞き、「サポートしてよかった」「喜んでもらって嬉しい」という思い（自己有用感）を感じさせるとともに、その思いを下学年に伝えられるようにする。</p> <p>・ 下学年は、上学年に対しての感謝の思いを表現させることを通して、思いを伝えることの大切さに気付かせる。</p>
---	---

取組の成果と課題

- ・ 上学年は、ピア活動を通して、下学年との関わり方を学ぶ中で、下学年のことを考えて行動することができ、頼りにされていたことにも気付くことができた。アンケートの結果から「喜びを感じた」、「やってよかった」と回答した児童が90%であり、自己有用感を養うことにつながった。
- ・ 下学年は、上学年に対して、自分達のために動いてくれていることに気づき、アンケートの結果から「あこがれの気持ちを抱くことができた」と回答した児童が95%だった。また、上学年の手本を見たり、優しく教えてもらえたりしたことで、活動の仕方がよく分かり、喜びを感じることもできた。